



さっぽろ雪まつり

4 いき 地域で受けつがれてきたもの

北海道には、どんな年中行事があるのだろう。



1 北海道の伝統や文化

北海道の年中行事

北海道の札幌市では、毎年2月ころになると「さっぽろ雪まつり」が行われます。



「雪像がたくさんあるね。どれくらいあるんだろう。」



「毎年200万人以上のお客さんが来るんだって。」



「外国人のお客さんもたくさんきているんだよ。」



「雪まつりのことをもっと知りたいな。」

1950年	地元の中・高校生が6つの雪像を大通公園に設置したことがきっかけで始まる。
1953年	高さ15メートルの大雪像がはじめて作られる。
1955年	自衛隊が参加し、大雪像づくりを行う。
1959年	はじめてテレビ、新聞でしかいされる。
1972年	冬季オリンピックが札幌で開かれる。雪まつりが世界に知られるようになる。
1974年	オイルショックでトラックのガソリンが不足し、雪が運べなくなったため、雪像の中にドラムかんを入れるなどして乗り切る。国際雪像コンクールスタート。

さっぽろ雪まつりの始まり

さっぽろ雪まつりが始まった1950年は、まだ敗戦後の苦しさが続いていた時代で、食料や燃料などが不足していました。当時の暗いムードから、明るさを取りもどすためにどうしたらよいか考えた人たちの動きが、雪まつりへとつながりました。1回目の雪像は、中・高校生が道具を持って来て、美術の先生の指導のもとで試行錯誤しながら作りました。

当日は、雪像てんじのほかにも、ドッグレースやダンスなどさまざまなプログラムがあり、およそ5万人のお客でにぎわいました。試験的な行事だった雪まつりは大成功をおさめ、札幌市民の期待も大きく、第2回からは札幌市の年中行事として位置づけられていきました。

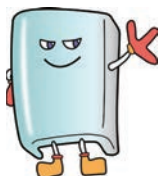


どうやって今のような世界的な雪まつりになっていったのかな。



たくさんのお客さんに来てもらうために、きっと工夫していると思うな。

わたしたちの室蘭でも、港まつりなどの年中行事が行われているね。もっとくわしく調べてみたいな。



調べて気になったことや疑問に思ったことをもとに、学習問題を作ろう。

問題について予想して、学習計画を立てよう。

学習問題例

雪まつりは、どうしてたくさんの人が参加するようになったのだろう。

学習計画

調べること

- ・雪まつりのよさ
- ・多くの人が見に来るわけ
- ・まつりを盛り上げるための工夫

調べ方

- ・見る
- ・話を聞く
- ・資料を使って調べる

つなげよう

北海道に昔から受けつがれてきたものには、どんなものがあるのだろう。

北海道には、どんなお祭りなどの年中行事があるのだろう。

伝統行事

古くから伝わる行事で、年中行事も伝統行事の一つ。

伝統芸能

古くから伝わる芸術やぎのう。音楽やおどり、絵や工芸品などがある。

北の生活文化

北海道の海^{うみ}辺^べには、江戸時代^{えどじだい}から続く祭りなどの伝統^{でんとう}行事があります。これらの中には、ニシン漁^{りょう}にまつわるものや、本州との交流からえいきょうを受けたものもあります。

また、人々に歌いつがれてきた民^{ぶし}ようとして、「江差追分^{えさしおいわけ}」「松前追分^{まつまえ}」「ソーラン節」などがあります。

日本各地^{かく}から北海道の開^{ひら}たくに入ってきた人たちは、年中行事として行われてきたふるさとの祭りや伝統^{げいのう}芸能を持ちこみ、心のよりどころとしてきました。本州から伝^{つた}わったこれらの風習^{ふうしゅう}が、北海道で新たな伝統を加えながら根付いて、今に続いています。

●ニシン漁や北海道との交流からえいきょうを受けた祭り

姥^{うば}神^{がみ}大神宮^{とぎよさい}渡御祭^{えさし}（江差町） 松前神楽^{まつまえかぐら}（松前町）

福島大神宮^{れいたいさい}例大祭（福島町）

●本州の伝統芸能から受けつがれている祭り

妹背牛^{もせうし}神社例祭（妹背牛町） 室蘭神楽（室蘭市）

多度志^{たとし}神社例大祭（深川市）

北海^みぼんおどり（三笠^{みかさ}市、道内各所）

どこで行われているのかな。
地図で調べてみよう。



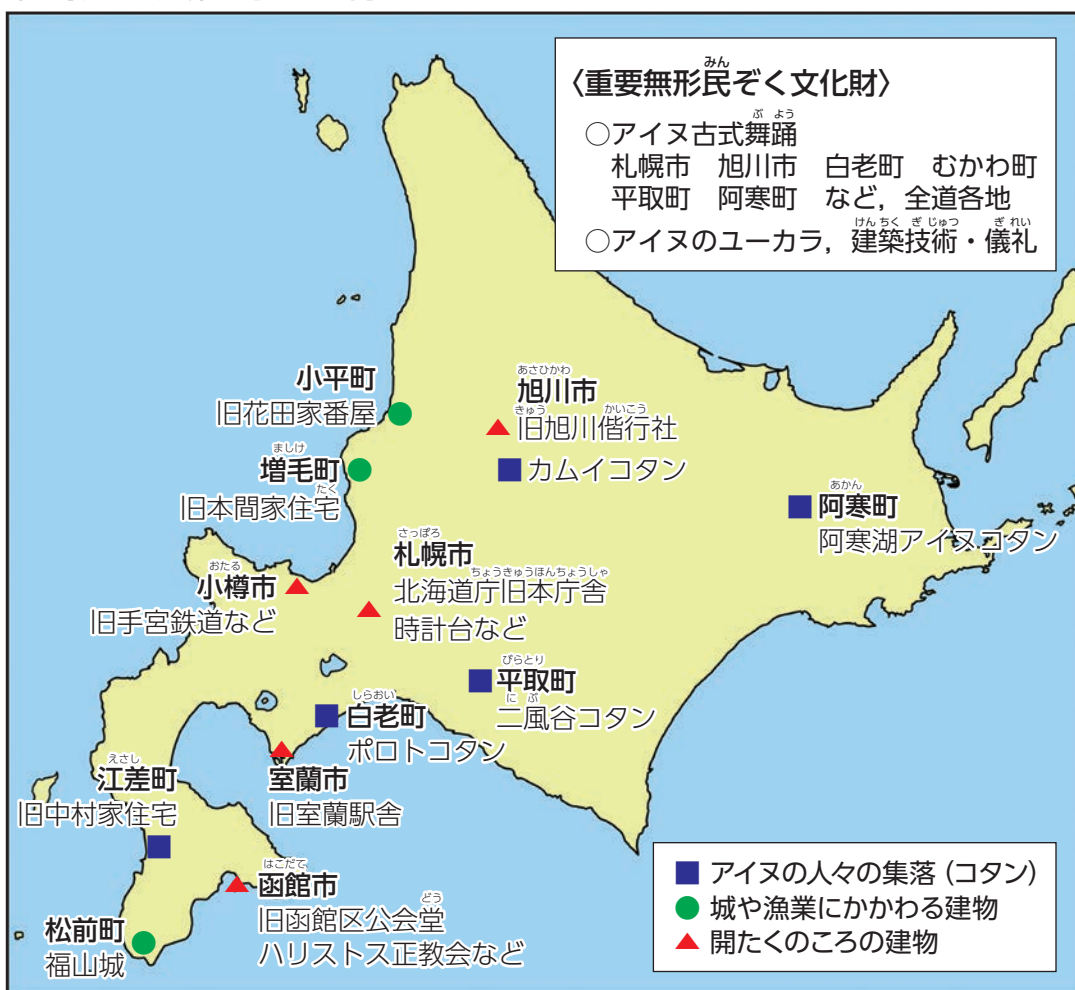
今では、日本を代表する祭りになった「さっぽろ雪まつり」のほかに、「冬まつり」(旭川市)「雪あかりの路」(小樽市)「はこだて冬フェステバル」(函館市)「昭和新山国際雪合戦」(壮瞥町)などが行われています。

てつやさんたちは、他にも北海道で昔から受けつがれているものや昔からあるものについて知りたくなりました。そこで、北海道の観光パンフレットやガイドブックを見て、気になったものをクラスで発表しました。

文化財

昔から伝わる文化として、ねうちのある物やわざのこと。わざなどの形のないものは、無形文化財とよばれる。

北海道の文化財・建物



2 アイヌの人たちの生活



コタンの様子（想像図）とチセ（家）のもけい

アイヌの人たちの生活はどのような様子だったのだろう。

アイヌ

「人間」という意味のアイヌ語で、和人のことは「シサム」とよんでいた。

骨角器

動物や魚の骨や角・きば等で作った道具。つり針やくし等がある。

アイヌの人たちの暮らし

わたしたちが住んでいる北海道や室蘭には、いつごろから人々が住み、どのような生活をしていたのでしょうか。

今から7～8000年ほど前から、北海道各地には、土器や石器、骨角器などを使い、かりや木の実などを集めて生活していた縄文人が生活していました。縄文時代はその後、続縄文時代、擦文時代と続き、アイヌ文化時代に移っていきます。

北海道には、和人が本州から移り住む前から、自然の神々（カムイ）に感謝し、自然と共に生きる心をほこりとするアイヌの人たちが住んでいます。

北海道の豊かな自然の中で、独自の文化を築いてきたアイヌの人たちの生活や心の世界を調べてみましょう。

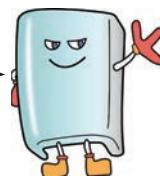


民俗資料館に展示されているアイヌの人たちが使った着物や道具

アイヌの人たちは、サケを主な食料^{りょう}としていたので、サケ^{たまご}が卵を産^うむために流れをさかのぼってくる川岸か海岸に近いところに家が集まり、集落（コタン）を作って生活していました。知恵^えと経験^{けいけん}のあるものが村長^{むらおさ}となって人々をまとめていました。

アイヌの人たちの生活の様子を調べて交流しよう。

- ・住む場所
- ・かりの様子
- ・食べ物
- ・着ているもの



「男の人は、野や山でクマやシカ、キツネやウサギ等の野生動物をとっていたんだね。」

「川や海ではサケなど魚や貝類^{るい}をとっていたんだ。」



「野山では、木の実や山菜^{さい}、キノコなどをとっていたのね。」

「野草の根からでんぷんを作ったり、畑であわやひえを育てて、それを粉^{こな}にしたりしておかゆやだんごのようなものを作ってたらしいわよ。」



北海道では、アイヌの人たちのどのような文化が守り伝えられているのだろう。

古式舞踊

地域の特色をもち、各地の保存会で受けつがれている。重要無形民俗文化財に指定されている。

アイヌの人たちの文化

アイヌの人たちは、身の回りにあるものはすべて神様が下さったと考えて、神様に感謝する祭りを大切にしてきました。

祭りの中には、歌やおどりがありました。そこには、神々に感謝の気持ちを伝えるとともに、ふだんのくらしの中での喜びや悲しみを神々と分かち合いたいという気持ちがこめられていました。いろいろなおどりや舞があり、ムックリやトンコリといった楽器を使った歌や音楽もあります。

昔から語り伝えられているお話は、アイヌの人たちが長い時間をかけて受けついだ文化の一つです。その多くは、ユーカラ（英雄の物語）、カムイユーカラ（神々の物語）、ウエペケレ・ウチャシクマ（昔話）の三つに分けられます。

<北海道の各地に残るアイヌ語の地名>

道内には、室蘭市と同じように、アイヌ語がもとになって、名前がついたまちがたくさんあります。

室蘭（むろらん）	→ 「モロラン」（ゆるやかに下る坂）
登別（のぼりべつ）	→ 「ヌプル・ペツ」（にごった・川）
洞爺（とうや）	→ 「ト・ヤ」（湖の岸）
白老（しらおい）	→ 「シラウ・オイ」（あぶの多いところ）
壮瞥（そうべつ）	→ 「ソー・ペツ」（たき・川）

アイヌの人たちと和人との歴史

アイヌの人たちと和人（本州から移り住んだ人々）は、自分たちの生活に必要なものを交換し合ってなかよくくらしていました。このような取引は昔から行われていましたが、和人の数が増えてくるとたがいの生活や文化にも変化を生み出しました。取引の決まりがアイヌの人にとって不利になり、不公平な取引でどんどん利益を失い、貧しくなりました。そのため、アイヌの人たちの不満はつのっていき、全道各地で和人との争いや戦いがくり返されましたが、次第に和人たちの勢力は強くなっていました。

アイヌの人たちは、山や川をうばわれ、川での漁や鹿などのかりができなくなったり、農業や日本語をおし付けられたりするなど伝統的な文化や生活を失っていきました。

しかし、北海道には、自然や生活の様子などを表現したアイヌ語地名がしっかりと生き残っています。また、先住民としてほこり高く守りぬいてきた素晴らしい文化や伝統は、後世に残していこうとする多くの人たちの協力で、現在も引きつがれています。

地域で受けつがれてきた様々な文化を、これからも守り伝えていくためにはどんなことが大切なのだろう。



シャクシャイン像

<北海道の呼び名>

当時、北海道は、アイヌの人たちにとっては「アイヌモシリ」、和人は「蝦夷地」と呼んでいました。

学習問題をふり返り、まとめよう

